

激動の時代に

関西企業トップストーリー

34

神戸でヘアケア品開発

私は日本、中で技術力、安心・安全に最も神戸は「高地淨土」で代表されるブランド力です。高地とは「技術が進んでる」、淨土は「心界に誇れるソフトパワー」落着く所」という意味。神戸のP&Gジャパンで主任研究員をしていたとき、隆力奇の徐之偉会長に誘われた。「良質で安いヘアケア品を共に作ろう。君が研究に専念できるなら世界のどこでもいい」と熱意に打たれ、神戸を選びました。

日本は暮らしやすい上

日本や米国の大学院で高分子化学を学んだ。シャンプーやリンスの開発は、まさに高く、世界中の人が「イ

日本で開発し、中国で作れば、質が良くて付加価値があり、しかも安く提供できる。中国だけで隆力奇から資本参加を受けてはいるが、独立した会社として複数

中国との橋渡し役担う

日本関係がぎくしゃくしているのが気になります。双方が冷静に知恵を出し合はないといけない。日本人が中国に脅威を感じるのは理解できる。でも、高度近代化を果たした国として、願わくば近代化途上の中国を長い目で見てほしい。故郷の北京にいる母には申し訳ないけれど、神戸に骨を埋めるつもり。仕事を通して、日中の良いところをつなげたい。だからこそ、日本人には自分たちの実力に自信を持つてほしいのです。

「日本人は実力を發揮せずに自信を失いかけている」。神戸・ポートアイランド2期にある「ビルス・イノベーション」(BHI)の楊建中社長(48)は残念がる。中国でシャンプーなどを扱う日用品大手「隆力奇」(蘇州市)が50%出資し、2009年4月に開設された製品開発拠点。日本人の元気のなさがもどかしいという。(小林由佳)

社長室
拝見!

穏やかな人柄がにじみ出る。「無口でしたが、P&Gでコミュニケーションを鍛えられました」=神戸市中央区港島南町5、BHI本社(撮影・笠原次郎)



よう・けんちゅう 1962年、北京市出身。北京化工大学を卒業後、「国内にいては展望がない」と85年、福井大学にいた親類を頼って来日。同大学や大阪市立大学を経て米国へ渡り、94年に米P&G入社。96年から通算13年間、神戸のP&Gジャパンに在籍し、2009年3月に退社。神戸・六甲アイランドに妻、2男1女と暮らす。

日のとき…

研究者志望だったが、腕試しに受けたP&Gへの入社を決めたのは、第1子の誕生直後に合格通知を受け、「運命だ」と思つたからだという。

13年後の07年、上海で開かれた国際学会で講演し、隆力奇の研究員として充実していたが、大企業で働くことの限界を感じ始めてもいた。計ったかのようなタイミングで、運命的なものを感じた。「典型的な理系人間ですが、縁や直感を人倍大切にするようになりました」

ビュートイー・アンド・ヘルス・イノベーション社長

楊 建中氏



発行所
神戸新聞社

郵便番号 650-8571
神戸市中央区東川崎町
1-5-7

<http://www.kobe-np.co.jp/>

電話 (078) 362局
社会部 7040 映像写真部 7047
経済部 7094 販売局 7066
運動部 7095 営業局 7081
文化部 7044 地域局 7086
生活部 7045 活動局

ご意見ご質問は読者センター
078・362・7056
(月~土 10:00~17:30)



**JAバンク 兵庫
JA/JA兵庫信連**
<http://www.jahs.or.jp>

購読のお申し込み
0120・16・8349
月~土 9:30~19:00
日・祝 9:30~17:30

みりん
<http://hinode-mirin.co.jp/>